

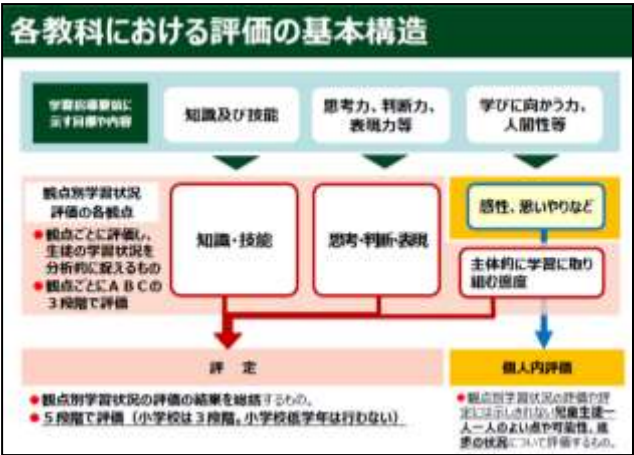
観点別学習状況の評価から評定への総括方法

1 はじめに

観点別学習状況の評価は、学習指導要領に示す各教科の目標に照らして学習の実現状況を分析的に評価し、各教科の評定を行う際に基本的な要素となるものである。

それに対して、評定は、学習指導要領に示す各教科の目標に照らして学習の実現状況を総括的に評価するものである。

観点別学習状況の評価の観点や評価の基本構造を抑え、適切な評価をしていく。



2 学年末における観点ごとの総括及び評定の方法

- 各学期の評価が同じ場合は、総括も同じに評価する。（例：B B B→B）
- 「A B A」のように、評価結果が同じでない場合は、出現率の高いものを重視しつつ、学年の目標、学年の評価の観点の趣旨と照らし合わせ、その実現状況を総括的に評価する。
- 「C B A」のように評価結果が向上していった場合、「A B C」のように下降していった場合は、学習全体をとらえつつ、学年の目標、学年の観点の趣旨と照らし合わせ、その実現状況を総括的に評価する。

3 学期末における観点別学習状況の評価の総括をもとに評定する方法

- 総括した3つの観点の評価が同一の場合は、評定も同じにする。（例：A A A⇒3）
- 総括した3つの観点の評価が同一でない場合は、出現率の高いものを重視しながら、学年の目標及び観点の趣旨に照らし合わせて実現状況を把握し評定する。

＜評定への総括の例＞ A = 3、B = 2、C = 1

観点別評価	点数計	評 定
A A A	9	3
A A B	8	3または2 学年の重点による
A B B	7	2
B B B	6	
A B C	5	
B B C	5	2 または 1
B C C	4	
C C C	3	1